



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成23年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 コナミ株式会社

コード番号 9766 URL <http://www.konami.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上月 景正

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略部長 (氏名) 山地 康之

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日

TEL 03-5771-0222

平成23年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満四捨五入)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	123,096	6.3	20,185	150.8	19,375	168.1	11,462	173.4
23年3月期第2四半期	115,763	1.6	8,050	74.6	7,227	79.4	4,192	87.8

(注) 四半期包括利益 24年3月期第2四半期 9,244百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 1,708百万円 (—%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	82.89	82.89
23年3月期第2四半期	31.41	31.41

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	313,287	205,546	205,335	65.5
23年3月期	313,891	198,407	193,914	61.8

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
24年3月期	—	25.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	16.00	41.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	258,000	0.0	33,000	58.7	31,500	65.1	18,500	43.0	133.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	143,500,000 株	23年3月期	143,500,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	4,877,000 株	23年3月期	7,359,029 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	138,272,696 株	23年3月期2Q	133,460,536 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予測には、本資料の発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれております。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料6ページをご参照願います。

決算補足説明資料は、平成23年11月4日に当社ホームページに掲載する予定です。

(添付資料)

【目次】

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更	7
3. 四半期連結財務諸表等	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第2四半期連結累計期間の概況

当社グループを取り巻く経営環境は、一部では個人消費に回復の兆しが見られたものの、東日本大震災の影響や、円高及び欧州の通貨危機等により、依然として不透明な状況が続いております。

エンタテインメント市場におきましては、モバイル端末の普及を背景としたソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の成長に伴い、ゲーム業界におけるビジネスチャンスは拡大しております。また、景気停滞の影響が顕著であったラスベガス等の観光客市場に底打ち感が出てきておりますが、大手カジノオペレーターの多くは投資に対し慎重かつ選別的な姿勢を継続しており、今後の市場動向を一層注視してまいります。

健康市場におきましては、景気の先行き不透明感から個人消費の抑制傾向が継続し、厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループのデジタルエンタテインメント事業におきましては、「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」を中心とするソーシャルゲームが好調に推移したほか、欧米にて「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「Pro Evolution Soccer 2012」を発売し、堅調に推移しました。

ゲーミング&システム事業におきましては、ビデオスロットマシン「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage5」、「Advantage Revolution」等の販売及びパーティシペーション（オペレーターとのプロフィットシェア方式）による収入が増加し、順調に推移しました。

遊技機事業におきましては、東日本大震災の影響を受けた部品調達等のサプライチェーンが回復を見せる中、「マジカルハロウィン3」が当社グループのパチスロ機において過去最多の出荷台数を記録する等、順調に推移しました。

健康サービス事業におきましては、多様化するお客様のニーズにあわせ、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かしたプログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様へ向けたサービスの提供に努めました。なお、東日本大震災により休館していた一部の直営施設につきましては、8月のコナミスポーツクラブ仙台長町（宮城県仙台市）を最後に全施設が営業を再開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,230億9千6百万円（前年同期比6.3%増）となり、営業利益は201億8千5百万円（前年同期比150.8%増）、税引前四半期純利益は193億7千5百万円（前年同期比168.1%増）、当社株主に帰属する四半期純利益は114億6千2百万円（前年同期比173.4%増）となりました。

②事業の種類別セグメントの業績

事業別売上高及び営業収入（セグメント間含む）要約版

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	増減率
	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
デジタルエンタテインメント事業	53,135	58,110	9.4
ゲーミング&システム事業	9,264	10,543	13.8
遊技機事業	10,018	13,325	33.0
健康サービス事業	43,842	41,578	△5.2
消去	△496	△460	△7.3
連結合計	115,763	123,096	6.3

(デジタルエンタテインメント事業)

ソーシャルゲームでは、昨年9月よりGREE(グリー)にて配信を開始した「ドラゴンコレクション」の登録者数が8月末に400万人を突破し、全体ゲームランキングでも50週連続の総合1位を獲得しております。また、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」や、8月に配信を開始した「Jリーグドリームイレブン」を含めた当社グループが展開するソーシャルゲーム全体の累計登録者数は1,100万人を突破し、成長著しいソーシャルゲーム市場において多くのユーザーから支持をいただき、好調に推移しました。なお、「ドラゴンコレクション」については、「GREE Platform 2011年上半期優秀アプリ表彰」にて「殿堂入り」を果たし、一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会(CESA)が主催する「日本ゲーム大賞 2011 フューチャー部門」において、同部門初の「特別賞」を受賞したほか、各種タイアップキャンペーンや同ゲームを主題とした漫画連載が始まる等、ユーザー層は拡大を続けております。

ゲームソフトでは、リアル系野球ゲーム「プロ野球スピリッツ2011」や、欧米向け「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「Pro Evolution Soccer 2012」を発売し、堅調に推移しました。

アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT Participation(パーティシペーション)」（ユーザーのプレー代金をオペレーターとシェアする方式）を導入した「麻雀格闘倶楽部 ultimate version(アルティメットバージョン)」が、安定した稼働状況で推移しました。また、9月には、音楽シミュレーションゲーム「jubeat copious(ユビート コピオス)」、大型競馬マスメダルゲーム「GI-HORSE PARK JUDGMENT(ジーワンホースパーク ジャッジメント)」のほか、当社グループのアミューズメント機器としては初めて、ソーシャルゲームとの連携機能を搭載した野球ゲーム「BASEBALL HEROES 2011 SHINE STAR(ベースボールヒーローズ2011 シャインスター)」の稼働も開始しております。

カードゲームでは、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズのほか、トレーディングカードとソーシャルゲームの楽しさを融合させた新商品「Digital Game Card(デジタルゲームカード)」シリーズとして、「FOOTBALL ALLSTAR'S(フットボールオールスターズ)」及び「BASEBALL ALLSTAR'S(ベースボールオールスターズ)」を発売し、堅調に推移しました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は581億1千万円(前年同期比9.4%増)となりました。

(ゲーミング&システム事業)

北米市場におきましては、定番となったビデオスロットマシン「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage5」及び「Advantage Revolution」等が好評を博しているほか、パーティシペーション(オペレーターとのプロフィットシェア方式)による収入も増加し、順調に市場シェアを獲得しております。また、オセアニア市場においては引き続き「Podium」の販売を進めているほか、欧州、中南米、アジア及びアフリカ市場においても、代理店網を整備し、拡販を進めております。

なお、オセアニア地域最大のゲーミング機器展示会「Australasian Gaming Expo」(8月/オーストラリア・シドニー)において、市場で安定した人気を誇る筐体「Podium」に新コンテンツを搭載して出展したほか、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」を「Podium」の新しいスラントマシンに搭載し出展しました。また、リンクプログレッシブ機の「High Velocity Grand Prix」、「Free Spin Dragons」や、スタンドアロンプログレッシブ機の新商品「Caribbean Jackpot」、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」等、幅広い商品ラインナップを披露し好評を博しました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は105億4千3百万円(前年同期比13.8%増)となりました。

(遊技機事業)

東日本大震災の影響を受けた部品調達等のサプライチェーンが回復を見せる中で、7月にパチスロ機「GRADIUS THE SLOT」、9月に「マジカルハロウィン3」を発売しました。「マジカルハロウィン3」におきましては、当社グループのパチスロ機において過去最多の出荷台数を記録する等、販売が順調に推移しました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は133億2千5百万円(前年同期比33.0%増)となりました。

(健康サービス事業)

市場環境は引き続き厳しい状況が続いておりますが、健康志向や高齢化に伴う介護予防への関心は高まっております。そのような状況の下、4月には「コナミスポーツクラブ 和泉府中」(大阪府和泉市)をオープンしました。市民の新たな交流拠点として期待されるように、総合的ゴルフ指導プログラム「コナミスポーツクラブ ゴルフアカデミー」を開設し、お子様向けにはスイミング、体育、ゴルフ、ジュニアファンク(ダンス系レッスン)、空手、合気道といった多様な種目を用意する等、幅広い年齢層にあわせた様々な目的やニーズに応える豊富なプログラムを用意しました。また、5月には「コナミスポーツクラブ グランサイズ大阪」(大阪府大阪市)をオープンし、西日本最大のターミナルであるJR大阪駅に直結する好立地で、フィットネススタジオやマシンジム、温浴施設、治療院を揃え、都会の中心においてワンランク上の贅沢なひとときを過ごしていただけるようなサービスを展開しております。このようにそれぞれの地域の特色にあわせたサービスの拡充を行うとともに、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かした健康増進プログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様に向けたサービスの提供に努めました。

受託施設運営では、「横浜国際プール」(神奈川県横浜市)、「湖西市複合運動施設」(静岡県湖西市)、「糸魚川市健康づくりセンター」(新潟県糸魚川市)、「宮崎市石崎の杜鯨鯨館」(宮崎県宮崎市)の運営受託を開始し、これまで培った運営・指導のノウハウや実績を役立て、各地域の公共施設運営を通じて地域社会の皆様の健康増進に取り組んでおります。

健康関連商品では、お客様の声のもと、従来品を更に魅力ある商品にリニューアルし、15種類の成分を配合した贅沢なコラーゲンドリンク「コラーゲンクリスタルリッチ」や、清く澄んだ”あづみの”の水「バイオメトリクスウォーターあづみの」を発売しております。

なお、東日本大震災により休館していた一部の直営施設につきましては、8月のコナミスポーツクラブ仙台長町(宮城県仙台市)を最後に全施設が営業を再開しました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は415億7千8百万円(前年同期比5.2%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比較して6億4百万円減少し、3,132億8千7百万円となりました。これは主として、売掛金や棚卸資産が増加した一方で、現預金が減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比較して77億4千3百万円減少し、1,077億4千1百万円となりました。これは主として、短期借入金の返済や社債の償還、買掛金の減少等によるものであります。

(株主資本)

当第2四半期連結会計期間末における株主資本合計は、前連結会計年度末に比較して114億2千1百万円増加し、2,053億3千5百万円となりました。これは主として、四半期純利益の計上や、株式会社ハドソン（連結子会社）を株式交換により完全子会社化したことに伴う自己株式の処分等によるものであります。

なお、株主資本比率は、前連結会計年度末に比較して3.7ポイント増加し、65.5%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期 連結累計期間 (自2010年4月1日 至2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2011年4月1日 至2011年9月30日)	増減
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,099	7,032	933
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,332	△3,351	2,981
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,158	△8,343	△5,185
為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△976	△923	53
現金及び現金同等物の純増減(△)額	△4,367	△5,585	△1,218
現金及び現金同等物の期末残高	46,373	53,956	7,583

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比較して55億8千5百万円減少し、当第2四半期連結累計期間末には539億5千6百万円（前年同期比16.4%増）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、70億3千2百万円（前年同期比15.3%増）となりました。これは主として、四半期純利益が増加した一方、売上債権及び仕入債務に係る資金収支が減少したことや法人税等の納税額が増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、33億5千1百万円（前年同期比47.1%減）となりました。これは主として、定期預金の減少等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により使用した資金は、83億4千3百万円（前年同期比164.2%増）となりました。これは主として、短期借入金の返済や社債の償還等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通し

(デジタルエンタテインメント事業)

9月に開催された「東京ゲームショウ2011」では携帯型ゲーム機「PS Vita」の展示に来場者の注目が集まり、新型ゲーム機への期待感が高まりました。また、スマートフォンやタブレットPCの世界的な普及により、そこで使用されるゲームコンテンツの供給も著しく高まっており、今後は従来の特定ゲーム機向けに特化しない、多様なデバイスに対応したコンテンツ制作が求められております。

そのような状況の下で当社グループは、コンテンツを軸にビジネスを展開することで、新しいデバイスの登場によって一つのコンテンツに対する出口が増えると捉え、それぞれのデバイスの特徴に合わせた遊び方を提案してまいります。

ソーシャルゲームでは、当社グループが展開するソーシャルゲーム全体の累計登録者が1,100万人を突破し、また「東京ゲームショウ2011」にて当社グループが展示したソーシャルゲームブースには多くのユーザーが来場し、人気の高まりが顕著になりつつあります。今後も拡大が見込まれる市場に経営資源をより一層集中し、「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」に続くヒットコンテンツを産み出すべく、これまでに培った制作・運営ノウハウや豊富なコンテンツを活かして、ラインナップの拡大を進めてまいります。

ゲームソフトでは、グラフィックや操作性をよりブラッシュアップした「Pro Evolution Soccer 2012 (ウイニングイレブン2012)」や、英国Rebellion社とのコラボレーションにより制作中の「NeverDead」、実写映画化が決定している「サイレントヒル」シリーズの最新作「SILENT HILL Downpour」等、グローバル展開のタイトル強化に注力してまいります。

アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT」を使った“人と人とのコミュニケーション”を通じてアミューズメント施設ならではの遊びを提供し、業界のさらなる活性化に取り組んでまいります。4月よりサービスを開始したコミュニティサイト「e-AMUSEMENT GATE」や、既にサービスを開始している電子マネー「PASELI」、「e-AMUSEMENT Participation」についても、順次対応機種やサービスの拡充を推進する等、業界を牽引する革新的なサービス提案を行ってまいります。

カードゲームでは、引き続き「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズをグローバルに展開するほか、「Digital Game Card」シリーズも、順次新規ラインナップを発売していく予定であります。

(ゲーミング&システム事業)

スロットマシン販売については、好評を博しているビデオスロットマシンの「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage5」及び「Advantage Revolution」等の積極的な販売を引き続き推進してまいります。また、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」の販売にも注力するとともに、市場のトレンドを的確にとらえた販売形式であるパーティシペーションの拡大により定期収入を増加させ、経営の安定化を図ってまいります。さらに今後は、欧州、中南米、アジア市場及びアフリカ市場についてもより積極的に参入してまいります。

その他、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」については、北米及び豪州市場において大手オペレーターを中心に導入を進めており、新機能の開発等による商品力強化に努め、今後も積極的に他市場へ向けた販売を行なってまいります。

なお、当社グループは、米国・豪州・日本の3拠点の連携をさらに強化し、経営の効率化や生産、販売の一層の強化を引き続き推進するとともに、当社グループの強みであるエンタテインメント性をベースに、社会の変化や需要に対応した新商品開発や既存商品の付加価値向上に努め、お客様により一層楽しんでいただける新商品を提案してまいります。

(遊技機事業)

当社グループのオリジナルコンテンツで人気シリーズでもある「がんばれゴエモン」の最新作や、「必勝金閣寺物語」等の発売を予定しており、引き続き当社グループのコンテンツを活用したパチスロ機の販売に注力してまいります。今後も商品ラインナップの拡充や販売体制等の更なる強化に努めてまいります。

(健康サービス事業)

健康サービス事業では、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、新たなライフスタイルの提案による「コナミスポーツクラブ」の付加価値向上を目指してまいります。また、300を超える国内最大規模のスポーツクラブを運営している強みを最大限に活用し、施設プログラムの充実・健康管理のIT化・商品拡充等の相乗効果を生み出し、事業を推進してまいります。

市場環境は引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、高齢化社会の到来と国家レベルでの生活習慣病対策等を背景に、社会全体における健康意識は高まっており、スポーツクラブ運営や健康機器開発・販売等の健康増進提案の機会は今後も広がっていくと思われま

す。当社グループでは引き続き、地域特性やお客様のニーズにあわせた施設展開や商品・サービスの拡大に努めてまいります。今後も事業環境の変化に応じて、施設内外を問わずに健康維持・増進を支援するサービスの拡充を目指してまいります。

一方、各施設では節電対策として、施設の営業時間・運営方法等、使用電力抑制対応を引き続き進めてまいります。

なお、当期の通期連結業績予想につきましては、デジタルエンタテインメント事業をはじめ、各事業が好調に推移していること等の要因により、以下のとおり修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2011年11月4日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

<2012年3月期通期連結業績見通し>

(金額単位：百万円)

	2012年3月期見通し		2011年3月期 実績	増減率 (対前期比)
	前回予想	今回予想		
売上高及び営業収入	258,000	258,000	257,988	0.0%
営業利益	26,000	33,000	20,791	58.7%
税引前当期純利益	24,000	31,500	19,082	65.1%
当社株主に帰属する当期純利益	14,000	18,500	12,934	43.0%

注意事項

本短信の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レート等が含まれます。

2. その他の情報

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

区分	前第2四半期 連結会計期間末 (2010年9月30日)		当第2四半期 連結会計期間末 (2011年9月30日)		前連結会計年度末 (2011年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び現金同等物	46,373		53,956		59,541	
2. 受取手形及び売掛金(貸倒引当金控除後)－2010年9月30日、2011年9月30日及び2011年3月31日現在の貸倒引当金はそれぞれ589百万円、334百万円及び275百万円	28,300		35,069		28,564	
3. 棚卸資産	28,887		31,437		25,479	
4. 繰延税金資産	20,514		21,114		23,239	
5. 前払費用及びその他の流動資産	11,626		8,258		12,111	
流動資産合計	135,700	45.8	149,834	47.8	148,934	47.4
II 有形固定資産	61,121	20.6	60,756	19.4	59,508	19.0
III 投資及びその他の資産						
1. 市場性のある有価証券	192		145		140	
2. 関連会社に対する投資	2,097		2,088		2,131	
3. 識別可能な無形固定資産	35,145		41,384		41,565	
4. 営業権	21,853		21,848		21,880	
5. 差入保証金	27,487		26,817		27,360	
6. 繰延税金資産	3,533		995		2,934	
7. その他の資産	9,490		9,420		9,439	
投資及びその他の資産合計	99,797	33.6	102,697	32.8	105,449	33.6
資産合計	296,618	100.0	313,287	100.0	313,891	100.0

区分	前第2四半期 連結会計期間末 (2010年9月30日)		当第2四半期 連結会計期間末 (2011年9月30日)		前連結会計年度末 (2011年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)						
I 流動負債						
1. 短期借入金	—		2,500		4,000	
2. 1年内返済予定の長期借入債務	5,000		5,000		5,000	
3. リース債務	2,385		2,443		1,783	
4. 支払手形及び買掛金	15,823		15,164		19,003	
5. 未払税金	2,831		5,019		6,121	
6. 未払費用	15,289		16,454		16,747	
7. 前受収益	10,463		10,235		4,804	
8. その他の流動負債	5,786		5,605		5,697	
流動負債合計	57,577	19.4	62,420	19.9	63,155	20.1
II 固定負債						
1. 長期借入債務(1年内返済予定分を除く)	10,000		5,000		10,000	
2. リース債務	25,886		25,724		25,516	
3. 未払退職・年金費用	2,853		2,195		2,932	
4. 繰延税金負債	4,388		3,632		5,503	
5. その他の固定負債	8,582		8,770		8,378	
固定負債合計	51,709	17.4	45,321	14.5	52,329	16.7
負債合計	109,286	36.8	107,741	34.4	115,484	36.8
(契約債務及び偶発債務)						
契約債務及び偶発債務						
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金	47,399	16.0	47,399	15.1	47,399	15.1
普通株式—無額面： 授権株式数 450,000,000株、 発行済株式数 2010年9月30日、2011年 9月30日及び2011年3月31日現在 143,500,000株						
2. 資本剰余金	77,089	26.0	74,175	23.7	75,490	24.0
3. 利益準備金	284	0.1	284	0.1	284	0.1
4. 利益剰余金	83,644	28.2	99,481	31.7	90,250	28.8
5. その他の包括利益(損失)累計額	△2,659	△0.9	△4,764	△1.5	△2,547	△0.8
6. 自己株式—取得原価 2010年9月30日現在 10,039,519株 2011年9月30日現在 4,877,000株 2011年3月31日現在 7,359,029株	△23,187	△7.8	△11,240	△3.6	△16,962	△5.4
株主資本合計	182,570	61.6	205,335	65.5	193,914	61.8
II 非支配持分	4,762	1.6	211	0.1	4,493	1.4
純資産合計	187,332	63.2	205,546	65.6	198,407	63.2
負債及び純資産合計	296,618	100.0	313,287	100.0	313,891	100.0

(2) 四半期連結損益計算書

区分	前第2四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)		当第2四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)		前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高及び営業収入						
1. 製品売上高	76,380		85,353		180,582	
2. サービス収入	39,383		37,743		77,406	
売上高及び営業収入合計	115,763	100.0	123,096	100.0	257,988	100.0
II 営業費用						
1. 製品売上原価	46,617		43,011		113,699	
2. サービス原価	38,606		35,774		75,333	
3. 販売費及び一般管理費	22,490		23,791		46,253	
4. 震災関連損失	—		335		4,455	
5. 負ののれん発生益	—		—		△2,543	
営業費用合計	107,713	93.1	102,911	83.6	237,197	91.9
営業利益	8,050	6.9	20,185	16.4	20,791	8.1
III その他の収益(費用)						
1. 受取利息	135		118		268	
2. 支払利息	△780		△726		△1,541	
3. 為替差損益—純額	△170		△195		△342	
4. その他—純額	△8		△7		△94	
その他の収益(費用)—純額	△823	△0.7	△810	△0.7	△1,709	△0.7
税引前四半期(当期)純利益	7,227	6.2	19,375	15.7	19,082	7.4
IV 法人税等	3,055	2.6	7,841	6.3	6,401	2.5
V 持分法投資利益(損失)—純額	28	0.0	2	0.0	41	0.0
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	4,200	3.6	11,536	9.4	12,722	4.9
VI 非支配持分帰属利益(損失)	8	0.0	74	0.1	△212	△0.1
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	4,192	3.6	11,462	9.3	12,934	5.0

(1 株当たり情報)

区分	前第2四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	31.41円	82.89円	96.48円
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	31.41円	82.89円	96.48円
加重平均発行済株式数	133,460,536株	138,272,696株	134,065,450株
潜在株式調整後発行済株式数	133,460,536株	138,272,696株	134,065,450株

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	4,200	11,536	12,722
営業活動によるキャッシュ・フローへの 調整項目			
減価償却費	6,294	4,718	12,388
貸倒引当金の純増減(△)	△116	67	△192
震災関連損失	—	—	4,455
負ののれん発生益	—	—	△2,543
有形固定資産除売却損益(△)	41	215	271
持分法投資損益(△)	△28	△2	△41
繰延税額	129	1,531	△918
資産及び負債の増減			
受取手形及び売掛金の純増(△)減	1,271	△7,519	2,385
棚卸資産の純増(△)減	△6,639	△6,810	△2,632
未収入金の純増(△)減	156	305	20
前払費用の純増(△)減	△1,301	△65	101
支払手形及び買掛金の純増減(△)	△49	△3,368	2,357
未払税金及び未収税金の純増減(△)	△542	622	576
未払費用の純増減(△)	△1,555	△55	△425
前受収益の純増減(△)	4,495	5,634	△1,157
前受金の純増減(△)	△58	△126	△185
預り金の純増減(△)	△240	△148	△117
その他—純額	41	497	△460
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,099	7,032	26,605

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
資本的支出	△4,779	△5,100	△10,554
有形固定資産の売却による収入	8	5	8
新規子会社の取得による収入	—	—	679
差入保証金の純増(△)減	30	320	497
定期預金の純増(△)減	△1,298	1,412	△1,412
その他—純額	△293	12	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,332	△3,351	△10,773
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減(△)	—	△1,500	680
長期借入債務の返済による支出	△204	—	△278
社債の償還による支出	—	△5,000	—
リース債務の元本返済による支出	△1,329	△1,140	△2,678
配当金の支払	△3,600	△2,229	△5,785
自己株式の取得による支出	△1	△22	△101
セール・アンド・リースバック取引による収入	1,975	1,547	1,975
その他—純額	1	1	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,158	△8,343	△6,182
IV 為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△976	△923	△849
V 現金及び現金同等物の純増減(△)額	△4,367	△5,585	8,801
VI 現金及び現金同等物の期首残高	50,740	59,541	50,740
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	46,373	53,956	59,541

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当社の連結子会社である株式会社ハドソンとの株式交換契約に従い、2011年4月1日に株式交換を実施し、同社を当社の完全子会社としました。これに伴い、同社の株主に対して割当てた当社株式の公正価値と非支配持分の簿価との差額は、連結貸借対照表上、資本剰余金として調整され、株主資本が43億5千6百万円増加し、非支配持分が同額減少しております。

(6) セグメント情報

①事業別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	52,788	9,264	10,017	43,694	—	115,763
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	347	—	1	148	△496	—
計	53,135	9,264	10,018	43,842	△496	115,763
営業費用	48,508	6,783	6,580	43,088	2,754	107,713
営業損益	4,627	2,481	3,438	754	△3,250	8,050

当第2四半期連結累計期間(自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	57,767	10,543	13,322	41,464	—	123,096
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	343	—	3	114	△460	—
計	58,110	10,543	13,325	41,578	△460	123,096
営業費用	43,003	7,790	9,636	40,493	1,989	102,911
営業損益	15,107	2,753	3,689	1,085	△2,449	20,185

前連結会計年度(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	132,474	21,868	17,985	85,661	—	257,988
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	650	—	2	250	△902	—
計	133,124	21,868	17,987	85,911	△902	257,988
営業費用	116,099	15,420	11,788	88,456	5,434	237,197
営業損益	17,025	6,448	6,199	△2,545	△6,336	20,791

1. 各事業別セグメントにおける主な事業内容は、以下のとおりであります。

- | | |
|------------------|---|
| ①デジタルエンタテインメント事業 | ソーシャルゲーム、オンラインゲーム、ゲームソフト、アミューズメント、カードゲーム等のデジタルコンテンツ及びそれに関わる製品の制作、製造及び販売 |
| ②ゲーミング&システム事業 | カジノ施設向けゲーミング機器及びカジノマネジメントシステムの開発、製造、販売及びサービス |
| ③遊技機事業 | パチスロ機及びぱちんこ機用液晶ユニット等の制作、製造及び販売 |
| ④健康サービス事業 | スポーツクラブ施設運営、健康関連商品の制作、製造及び販売 |

2. 全社の項目は、主に本社費用から構成されております。

3. 消去の項目は、主にセグメント間取引高消去及び棚卸資産の未実現利益消去等から構成されております。

②所在地別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間（自 2010年4月1日 至 2010年9月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	92,782	14,258	5,189	3,534	115,763	—	115,763
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,682	627	1,231	254	7,794	△7,794	—
計	98,464	14,885	6,420	3,788	123,557	△7,794	115,763
営業費用	93,834	12,426	5,894	3,214	115,368	△7,655	107,713
営業損益	4,630	2,459	526	574	8,189	△139	8,050

当第2四半期連結累計期間（自 2011年4月1日 至 2011年9月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	102,495	13,938	3,729	2,934	123,096	—	123,096
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,090	667	194	114	5,065	△5,065	—
計	106,585	14,605	3,923	3,048	128,161	△5,065	123,096
営業費用	88,877	12,118	4,211	2,828	108,034	△5,123	102,911
営業損益	17,708	2,487	△288	220	20,127	58	20,185

前連結会計年度（自 2010年4月1日 至 2011年3月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	194,431	36,870	19,525	7,162	257,988	—	257,988
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,368	1,837	1,661	710	21,576	△21,576	—
計	211,799	38,707	21,186	7,872	279,564	△21,576	257,988
営業費用	201,244	32,144	18,670	6,687	258,745	△21,548	237,197
営業損益	10,555	6,563	2,516	1,185	20,819	△28	20,791

外部顧客に対する売上高については、当社及び子会社が製品の販売もしくはサービスを行っている場所に基づいてそれぞれの地域を決定しております。

(注記)

この連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しております。